

## 第8回

# 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。



## 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。また、東日本大震災の復興応援のため、特別賞を設けています。

## 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



### 目次

- 02 ..... 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介
- 03 ..... ごあいさつ
- 04 ..... 講評
- 06 ..... 子育て支援活動の表彰
- 25 ..... 女性研究者への支援
- 30 ..... 第5回(2011年度)受賞者最終報告
- 34 ..... 第7回受賞者のご紹介

## 橋本 雅博

住友生命保険相互会社  
代表取締役社長

住友生命は、お客さまをはじめとするすべての方々が、さまざまなライフイベントを楽しみ、豊かで明るい人生を送れるように応援したいと考えております。そうした想いから、「共存共栄」、「相互扶助」の理念のもと、時代の変遷とともに、さまざまな社会貢献活動を行ってきました。

昭和35年、予防医学の考え方がまだ普及していない時代に、各種疾病の早期発見のため、移動診療車による健康診断事業という形で医学への貢献事業を開始しました。平成3年からは高齢化社会に備えるために介護分野への支援活動を開始しております。

そして、平成19年、これからの日本の未来を担う子どもたちを応援するために、子育て支援事業「未来を強くする子育てプロジェクト」を開始しました。子育て支援は、女性活躍推進や日本の人口構造の変化、地方創生等多くの社会問題と切り離すことのできないとても大切な事業であると考えております。



プロジェクト開始以来「子育て支援活動の表彰」に応募いただいた団体数はのべ1,313組、「スミセイ女性研究者奨励賞」に応募いただいた研究者は1,077名となりました。

子育て支援に取り組む皆さまは、地域の特性等を活かしながら示唆に富んだ活動を実践されており、女性研究者の皆さまは、従来の枠組みにとらわれず、広いフィールドで研究を継続されています。

その姿は力強く、多くの方を勇気づけるものであります。広く社会へロールモデルとして紹介することで、子育て環境の改善に向けた支援の輪が広がっていくことを願っています。

住友生命では、これからも皆さまの未来を明るく強いものにするために取り組んでいきたいと考えております。

### 選考結果

第8回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2014年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には216組、「女性研究者への支援」には145名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

表彰数

15  
組

応募数216組

#### 子育て支援活動の表彰

- 文部科学大臣賞／未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／未来大賞の1組に授与
- 未来大賞／2組
- 未来賞／10組
- 震災復興応援特別賞／3組

表彰数

10  
名

応募数145名

#### 女性研究者への支援

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

「未来を強くする子育てプロジェクト」選考委員



〔選考委員長〕 **汐見 稔幸** 白梅学園大学学長、東京大学名誉教授

時代の変化とともに子育て支援活動に求められるものもシフトしていくなか、社会の問題意識を敏感に感じ取り、その解決のために先んじて新たな支援を実践している方々がおられることに頼もしさを覚えました。一方、女性研究者の選考にあたっては、視野の広さと研究テーマの深さを兼ね備えた方を念頭に審査を進めさせていただきましたが、さまざまな制約があるなかで基礎研究に真摯に取り組まれている姿勢がとても印象的でした。「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」はともに、これからの日本あるいは世界をより良いものにしていく上で不可欠な支援だと確信しています。素晴らしい活動や有為の女性研究者を今後も応援していきたいと考えています。



〔選考委員〕 **大日向 雅美** 恵泉女学園大学大学院 平和学研究科教授

どちらか一方だけでも大変な育児と研究を両立させつつ、さらにご家族の看護や介護なども行いながら頑張る女性研究者もいらっしゃる、その強さとしなやかさには敬服の念を禁じ得ません。フィールドを海外に求めるなど研究テーマも実に多彩ですし、また社会人を經由して再び研究の世界に戻ってくるといった複線的なキャリアを歩む方などもおられて、女性のバイタリティの高さを再認識させられた選考となりました。しかし、いくら女性が強く逞しくなったとはいえ、サポートがなくては限界があります。女性の活躍促進が国を挙げて推進されるなか、その実現のために真に必要な支援とは何かを「スミセイ女性研究者奨励賞」が示唆し、考える契機となることを確信しております。



〔選考委員〕 **奥山 千鶴子** 特定非営利活動法人びーのびーの理事長

今回で8回目を迎えた「子育て支援活動の表彰」部門への応募数が過去最多となったことにつきましては、回を重ねるごとに確実に認知度が高まっていること、そしてこのプロジェクトに対して大きな期待が寄せられていることの表われだと感じています。ご応募いただいた皆様に深く感謝申し上げます。選考を通じて拝見した応募書類からは、経済的に困難な家庭が増えるなか、必要とされる子育て支援の内容や方法が多様化している実態がうかがえました。行政による支援だけではまならない地域の実情を踏まえ、各地の心ある団体がそれぞれに創意工夫を凝らしながら、地域において必要な活動を自らの手で行う姿はとても尊いものだと感じました。



[選考委員] **米田 佐知子** 子どもの未来サポートオフィス代表

応募数の増加にも見て取れるように、子育て支援の輪が着実に広がっていることを大変うれしく思います。今回の応募の傾向としては、アフタースクール、産前産後の妊産婦や、貧困やネグレクトなど厳しい環境の中にある子どもたちへの支援活動が多く見られました。日ごろニーズの高まりを強く感じる領域であり、各地での地道な実践に敬意を感じると共に、その必要性和支援リソースの充実を社会へ訴えたいと思います。

「震災復興応援特別賞」につきましては、被災された当事者の方が中心となって今日まで活動を続けてこられた団体などが受賞されたわけですが、ともすれば震災の記憶が薄れつつある今、こうした地道な活動に光を当てて応援していくことの意義は非常に大きいと考えています。



[選考委員] **本城 正哉** 住友生命保険相互会社 取締役専務執行役員

今回、過去最多のご応募をいただきありがとうございます。

今年度の特徴として、子育て支援活動の表彰部門では、ひとり親家庭や児童養護施設の子どもたちへの学習支援活動が多く見受けられました。その支援を大学生などの若者が行っているところも多く、支援の担い手の拡がりを嬉しく思いました。

また、女性研究者への支援部門では、研究をグローバルに展開している方が多く、子どもを連れて世界中を飛び回っている女性研究者の皆さまの力強さに感銘を受けました。

今回の受賞をきっかけに、今後皆さまの活動・研究が一層充実したものとなることを願っております。

「子育て支援活動受賞団体」のご紹介

p.08



未来大賞・文部科学大臣賞  
特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

p.10



未来大賞・厚生労働大臣賞  
特定非営利活動法人 だいじょうぶ

p.12



未来賞  
一杯の味噌汁プロジェクト

p.13



未来賞  
エンゼルママ西

p.14



未来賞  
一般社団法人 大分県助産師会

p.15



未来賞  
特定非営利活動法人 キッズNPO

p.16



未来賞  
静岡学習支援ネットワーク

p.17



未来賞

練馬ママ漫画ルーム「よんこま」

p.18



未来賞

特定非営利活動法人 備前プレーパークの会

p.19



未来賞

北光クラブ

p.20



未来賞

特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター

p.21



未来賞

特定非営利活動法人 ままとーん

p.22



震災復興応援特別賞

特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット

p.23



震災復興応援特別賞

いわて助産師による復興支援まんまる

p.24



震災復興応援特別賞

特定非営利活動法人 にじいろクレヨン

## 特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

大阪府大阪市 代表者：和田 隆博



### 活動内容

子どもデザイン教室は、親と暮らせない子どもたちに①学びの支援、②お金の支援、③暮らしの支援をするNPO法人です



受

賞

言

葉

このたびは未来大賞という素晴らしい評価をいただき、ありがとうございます。私たちの受賞は、子育てが母親一人の責任から、社会全体の責任に変わろうとする機運の現れだと思います。私たちの挑戦はほんの小さな点ですが、濃密な点です。この濃密な点を描き続けることで、線となり、面となり、社会全体に広がることを期待しています。

名称：特定非営利活動法人  
子どもデザイン教室

活動開始：2007年

スタッフ：常駐2名、ボランティア8名

連絡先：〒546-0035

大阪府大阪市東住吉区山坂4-5-1

TEL.06-6698-4351

## ▶ デザイン教育を通じて育むのは、子どもたちの「自立心」

### デザインを通じて

#### 子どもたちの「自立心」を育みたい

大阪府には24の児童養護施設がありますが、施設内で十分な生活力を身につけることができないままに社会へと出た子どもたちは、その後、一般家庭に比べ、就労条件が不利になりがちで、貧困のスパイラルに陥ってしまうことも少なくありません。

そうした状況を改善するために、デザインを学ぶことによって子どもたちに、自らの将来を企画・設計できる力、つまり真の意味での自立心を育んでもらう場として「子どもデザイン教室」を開きました。児童養護施設の子どもたちのために受講料無料で開放しているこの教室では、単なる作画のテクニックだけでなく、実際のイラストやゆるキャラづくりなどを通じて、デザインの根底にある考え方やノウハウも含めて教えています。

#### 「デザイン教育」が秘める大きな力と可能性

「アート教室ではなく、あくまでもデザイン教室である」というのが、私たちの活動の基本的なスタンスです。アートは自己表現の手段であるため何を描くのも何をつくるのも本人の自由ですが、デザインはそうではありません。デザインは人に伝える手段であり、そこには相手が存在します。そのた



め、相手に対して何をどのように伝えていくかを常に意識する必要があります。

つまりデザインを通じて子どもたちは、相手の立場に立って考える姿勢や、効果的に伝えるために必要な物事の組み立て方など、社会生活を送る上で求められるコミュニケーション力を広く学んで身につけることができます。これこそが、デザイン教育が持つ特に優れた点だと思っています。

#### 成長していく子どもたちの姿が一番の成果

デザイン教育を通じて、教室に通う子どもたちの学資支援を行っている点も、私たちの活動の特徴の一つです。具体的には、子どもたちが考案・作成したオリジナルのキャラクターやデザインを企業に販売し活用してもらう取り組みを行っており、この取り組みを始めて以降、子どもたちのデザインを採用してくれる企業の数は徐々に増え、地元の有名企業からも協力を得られるようになりました。

その他にもコンテストで入賞を果たすなど、子どもたちのデザインは高い評価を得ていますが、何よりも私たちの活動の一番の成果は、周囲から認められることによって自信と元気を取り戻し、生き生きと輝く子どもたち自身の姿だと思っています。



## 特定非営利活動法人 だいじょうぶ

栃木県日光市 代表者：畠山 由美



写真提供：下野新聞社



### 活動内容

育児疲れや生き辛さを抱えた母親に寄り添い、具体的な支援をしたり、子どもたちに必要な養育を補い、普通の暮らしを提供しています

### 受賞の言葉

受賞の知らせをいただき、驚きと感謝でいっぱいです。活動開始から今年で10年目を迎えます。ただひたすらに目の前の親子に寄り添い、子どもの声に耳を傾け、子どもの幸せを願いながらできる限りのことを精一杯やってきた年月でした。この受賞を励みにこれからも子どもたちの豊かな成長を願いながら活動を続けてまいります。

名称：特定非営利活動法人  
だいじょうぶ

活動開始：2005年4月

スタッフ：16名

連絡先：〒321-1261  
栃木県日光市今市1659-10  
TEL.0288-21-2119

## ▶ さまざまな困難を抱えた親子の社会的自立を目指して

### 地域が抱える課題を解決するために

東照宮や鬼怒川温泉などを擁する日光市は全国有数の観光地であり、他県からの転入者も含めて多くの人たちが観光業に携わっています。しかし景気に左右されやすい観光業は、就労環境が不安定であることに加えて仕事が夜間に及ぶこともあるため、育児との両立が難しい状況に置かれている家庭も多く、育児放棄や児童虐待のリスクが高いことが地域の課題となっています。

そうした課題を地域の力で解決していこうと、行政を交えた有志による勉強会が発足しました。その成果として、児童相談所などと連携しながら、子どもの虐待に関する相談対応ならびに一時預かり（ショートステイ）を行うようになったのが、私たちの活動の出発点です。

### 目指すのは、子どもたちの居場所づくりと 家庭の生活力向上

子どもたちを家や学校まで迎えに行き、洗濯・食事・入浴といった必要な養育を補い、夜には家まで送り届けるというのが、『居場所』の基本的な流れです。利用に際しては親の同意が必要になりますが、別居を基本とする通常の児童養護施設とは異なり、私たちの『居場所』では親子が生活を共にす



ることができるため、心理的な抵抗感も少なく、より気軽に参加していただけるようです。

また、子どもたちに対して居場所を提供するとともに、子育て力や生活力を高めるためのさまざまなアドバイスを行うことで、親自身の意識変革も促しています。子どもだけでも親だけでもなく、双方を支援することによって家庭全体の生活を向上させていくことが、私たちの目指すところです。

### 子どもも親も受け入れて支援していきたい

複雑な事情・問題をはらんだ相談が日々多く寄せられますが、そこに虐待やDVなどが存在しないのであれば、親子が一緒に生活する中で問題の解決に取り組む方が効果的であると、私たちは考えています。放課後の一時預かりである『居場所』も、用意した施設に入居してスタッフのサポートを受けながら親子で暮らしてもらうステップハウスも、そうした考えのもとに行っています。

育児放棄をしてしまう親を責めるのではなく寄り添い、「だいじょうぶ」という言葉をかけることによって、固まった心をほぐしてあげる。子どもはもちろん、親も受け入れ、支援していく活動を今後も続けていきたいと思っています。





## 一杯の味噌汁プロジェクト

秋田県秋田市 代表者：小山 明子

▶ 味噌汁づくりを通じて、  
子どもたちの心と体を健やかに育みたい

活動  
内容

育ちの原点は食べること

「ごはん」と「味噌汁」を中心とした食生活で子どもたちの健康を育みます

### 味噌汁の力を通じて、 子どもたちの未来を強くしたい

「一杯の味噌汁プロジェクト」は、日本の伝統食である味噌汁づくりを通じて、子どもたちの心と体を健やかに育むことを目指すプロジェクトです。子どもたちには食材の調達や調理といった生きるために必要な力を身につけてもらい、若いお母さんたちには味噌汁を通して食を、またその食材を生む秋田という地域の良さを見直してもらうために、さまざまな教室・イベントを開催しています。

### 「秋田」だからこそ味噌汁

恵まれた環境の中で生まれ育った今の子どもたちは、東日本大震災のような大きな困難に直面したときに、強くたくましく生きていくことができるのだろうか。そうした疑問と不安から、私たちの活動は生まれました。育ちの原点は食べることです。秋田県は米どころであると同時に味噌どころでもあり、またおいしい野菜もたくさん採れる、そんな場所だからこそ「味噌汁」に着目しました。この活動を通じて、子どもやお母さんたちはもちろん、地域全体を元気づけるお手伝いができたらと思っています。

### 目標は、子どもたちみんなが おいしい味噌汁をつくれるようになること

私たちはこの活動を長い目で考えていて、たとえ

ば20年先、30年先に、成長した子どもたちみんなが自らの手で味噌汁をつくれるようになっていくことが一つのゴールです。「秋田県の子どもたちがつくる味噌汁はとておいしい！」と言ってもらえるくらいに、この活動が浸透すればうれしいです。

名称：一杯の味噌汁プロジェクト

活動開始：2011年9月

スタッフ：10名

連絡先：〒010-0011

秋田県秋田市南通亀の町3-32

TEL.080-1823-5303

### 受賞の言葉

子どもの未来づくりの原点は、心身の健康です。その基盤となるものは「食」にあります。ファーストフードやコンビニ食などお金を出せばお腹を満たすことのできる便利な世の中だからこそ、「ごはん」と「味噌汁」の素晴らしさを見つめ直し、地域の食を味わう幸せを伝えたいと思います。このたびの受賞が活動の大きな励みとなりました。心より感謝申し上げます。



## エンゼルママ西

大阪府堺市 代表者：埴 知英子

▶ 自分たちも楽しみながら、  
地域の子育てサークルをサポート

### 活動内容

保健センターの赤ちゃん広場や、4ヶ月検診、  
母子分離研修・講演会の保育・地域の子育てサロンのほか、世代間交流なども行っています

### 頑張りすぎない子育て支援

市が主催する子育てアドバイザー講座に参加して学んだことを地域の中で活かしたいと考え、その第一期受講生が中心となって「エンゼルママ西」を立ち上げました。「メンバーそれぞれができるときにできることをする」というのが私たち流の子育て支援です。そうした無理のないスタイルこそが、この活動を10年以上にわたって続けてこられた秘訣なのかもしれません。

### 行政からも頼りにされています

活動内容が評価され、市や保健センターから、赤ちゃん広場開催時や4ヶ月検診時、また、子育て講演会の際の保育なども任せられています。同様に、地域の社会福祉協議会とも密接かつ良好な関係を築くことができています。今後はこうしたネットワークを活かして、高齢者を子育てサークルに招くなどの多世代交流活動にも力を入れていきたいと思ひます。

### 大事なのは自分たちも楽しむこと

堺市には校区ごとに子育てサークルが存在しますが、運営する側の負担も大きく、活動を持続させていくのは容易なことではありません。そこで私たちは、さまざまなノウハウやプログラムを提供することで子育てサークルを支援する活動も行ってい

ます。言わば側方支援ですが、イベントの企画を練るメンバーの表情はいつも生き生きとしています。子育てサークルの参加者に喜んでもらうのと同じくらい、裏方である自分たち自身が楽しむことも大事なことだと考えています。

名称 : エンゼルママ西

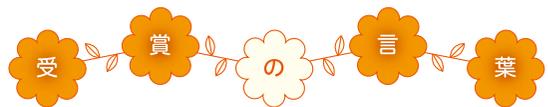
活動開始 : 2003年

スタッフ : 10名(男性1名、女性9名)

連絡先 : 〒593-8307

大阪府堺市西区平岡町413番地

TEL.072-274-3476



地道な活動が実を結び、私たちのような小さいグループがこの賞をいただき、夢のようです。ボランティアをする際は、まず「家庭を第一に」をモットーにしています。家族の支え、社協・保健センターなどの支援を受けながら、かわいい子どもに囲まれて、私たちがたくさん元気をもらっています。これからも小さな蕾がたくさん花開くように頑張っていきたいです。



## 一般社団法人 大分県助産師会

大分県大分市 代表者：黒本 美耶子

▶ 産前産後だけにとどまらず、  
女性の“一生”に寄り添った支援活動

活動  
内容

産前産後の子育て・女性健康支援活動から、「いのちの大切さ」出張講座、  
孫育て等、女性の一生に寄り添った活動をしています

### 365日いつでも頼れる電話相談

古くから大分県は助産師の活動が盛んな土地ですが、助産師会として組織的に活動を行うようになったのは、日本助産師会の呼びかけに応じて1999年に「子育て・女性健康支援センター」を設置したのがきっかけです。当時から現在まで続く「赤ちゃん＆おっばい電話相談」は約80名の助産師が持ち回りで担当しています。年中無休の相談ダイヤルは全国的に珍しいこともあって、大分県外からも毎日多くの相談が寄せられています。

### お母さんたちの声を踏まえて活動の幅を拡大

乳幼児健診などに訪れたお母さんたちを対象にアンケートを実施し、そこで拾い上げた声をもとに活動の幅を段々と広げてきました。たとえば、お母さんたちとおじいちゃん・おばあちゃんとの間で子育てを巡るトラブルが多いことに着目して始めた「孫育て教室」などはその一つです。その他にも、新米ママ・パパの悩みにお答えする「プレママ・プレパパ教室」や、命の大切さを広く伝えるための出張講座なども精力的に行っています。

### 困っている人に手を差し伸べる助産師の精神を 次の世代へ

大分県助産師会は、産前産後という限定された時期だけでなく、女性の一生に寄り添った支援活動

を継続的に行ってしてきました。前身である大分産婆会の時代から続いている活動は、年輪を感じさせる重厚なものであり、先人たちの想いが詰まっています。そんな命に寄り添う精神と取り組みが、よき伝統として受け継がれていくことを願っています。

名称：一般社団法人 大分県助産師会

活動開始：1999年7月

スタッフ：204名(会員数)

連絡先：〒870-0035  
大分県大分市中央町4-2-29  
園田ビル 201号  
TEL.097-534-0753



地道な妊産婦支援の活動を認めていただき、感謝しております。地域の方々により満足していただける「いいお産」や「いい相談」が提供できるよう、子育てに悩む女性に寄り添いながら、将来を担う子どもたちが生き生きと力強く生きていける「明るい未来」へのお手伝いを続けていきたいと思っております。



# 特定非営利活動法人 キッズNPO

広島県廿日市市 代表者：吉本 卓生

▶ 多様な保育サービスを地元企業に提供し、ワーク・ライフ・バランスのモデルづくりに取り組む

## 活動内容

子どもが生きる力、夢を持ち続けていける、子育てにやさしい町づくりを目指して活動しています

### 認可外保育園を皮切りに 多彩な保育サービスを提供

待機児童の問題解消を目的に認可外保育園を開園するところから私たちの活動はスタートしました。現在は託児所や学童保育も手がけるなど地域の子育て環境の更なる整備に努めており、認可保育園オープンに向けた準備も進んでいます。一方で、森のようちえんや各種体験教室を通じて、豊かな自然の中で子どもたちに「生きる力」を育んでもらうための活動も行っています。

### ワーク・ライフ・バランスに取り組む 地元企業が増加中

夜間保育や病児保育など保育サービスを充実させることによって、そこに預けられる子どもたちの負担はかえって大きくなっているのではないかと活動を続けるうちに、そうしたジレンマを抱くようになりました。そこで2011年からは、まず市内の企業に対してワーク・ライフ・バランスの推進を促す活動を開始し、仕事と育児の両立を図りやすい労働環境を整えるために、保育料の割引を始めとしたさまざまなサービスを提供しています。

### 私たちの取り組みをまずは県内で広げていきたい

今後も「子育て支援」と「子ども支援」を両輪とした活動を続けていくことで、子ども、働く親、企業、

そして保育環境のバランスが取れた社会の実現を目指したいと思っています。とりわけ企業に対するワーク・ライフ・バランスの働きかけは、子育てを巡る問題の根本的な解決を図る有効な取り組みであり、今後は行政の協力も得ながら、この活動を広く県内に普及させていきたいと考えています。

名称：特定非営利活動法人 キッズNPO

活動開始：2006年11月11日

スタッフ：11名

連絡先：〒738-0033

広島県廿日市市串戸3-1-6

TEL.0829-31-2121



「ワーク・ライフ・バランス」は、子ども、親、企業、みんながハッピーになれる子育て支援です。受賞を機に多くの企業へワーク・ライフ・バランスを推進していくとともに、この活動を県内外にも広めていけるように頑張っていきたいと思っています。



## 静岡学習支援ネットワーク

静岡県静岡市 代表者：天池 優斗

▶ 現役大学生による、社会的困難を抱える子どもたちのための、学習支援と居場所支援

### 活動内容

「勉強したくてもできない子どもたちの力になりたい！」  
大学生による社会的困難を抱える子どもたちのための、学習・居場所支援

### 学習支援を通じて、 貧困のスパイラルを断ち切りたい

学習の意志を持ちながらも、家庭の事情により塾に通うことができない、または不登校になっている子どもが、ここ静岡にも少なくありません。親の収入が子どもの学力、ひいては進学や就職にまで影響を及ぼすとも言われるなか、自らの可能性を狭めることなく将来に対して希望を持ってもらいたいとの思いから、社会的困難を抱える子どもたちを対象にした学習支援活動を始めました。

### “斜めの関係”がちょうど良い

静岡学習支援ネットワークは、10名の運営スタッフと30名ほどの学習支援スタッフからなりますが、そのすべてが現役の大学生です。勉強を教わる子どもたちからすると、スタッフは先生というよりはお兄さん・お姉さんのような存在であり、また身近なお手本でもあります。こうした斜めの関係性は、学習面だけでなく精神面のサポートを行う上でも非常に有効だと考えています。

### 私たちの活動はまだ始まったばかり

これまでに「宿題カフェ」「みらこや」「あべこや」という3つの常設教室を開設するとともに、各種交流イベントや情報発信なども積極的に行ってきました。活動歴こそまだ短いですが、すでに何人かの

子どもたちがここを巣立ち、高校進学を果たしています。将来的には、そうした卒業生たちが静岡県内の大学へと進み、今度はスタッフとして次の世代の子どもたちの学習支援に携わるといった好循環が生まれることを期待しています。

名称：静岡学習支援ネットワーク

活動開始：2012年2月

スタッフ：10名、ボランティアスタッフ約30名

連絡先：〒422-8002

静岡県静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学

TEL.070-6582-3264



設立から3年目、まだまだ発展途上の私たちですが、このたびはこのような賞をいただくことができ心より感謝しております。子どもの貧困という言葉が注目を浴びつつある今、さまざまな活動が広まっていくことを願っております。子どもたちの笑顔を元気の源に、これからも精一杯活動してまいります。



## 練馬ママ漫画ルーム「よんこま」

東京都練馬区 代表者：うえき あやこ

▶ 世界に誇る漫画文化を活かした、  
日本ならではの育児支援

### 活動 内容

赤ちゃん連れのママが自分の時間をもてるように  
「男子禁制・漫画読み放題・飲食持込自由」の居場所を提供しています

### コンセプトは「ママが赤ちゃん連れで漫画を読む 居場所」

「よんこま」は、漫画を読みながら気兼ねなく過ごすことのできる、赤ちゃん連れのママたちのための居場所です。その大きな特徴は、子育て支援ではなく、母親支援を主な目的としている点にあります。毎日開催しているイベントに参加するのもしないのも自由にしてもらっているので、のんびりとお茶やお喋りを楽しむだけの利用者もあります。そうした緩く自由な雰囲気が、ストレスfulなママたちには居心地が良いようです。

### 自身の経験から、このアイデアが生まれました

走り回れる子どもたちまでを対象としている子育て広場では、赤ちゃんを床に下ろすことを躊躇してしまうことが少なくありません。私自身も同様の経験から、かえって肩身の狭い思いをし、足が遠のいてしまったことがあります。赤ちゃんの安全とママの安心のために、「よんこま」ではあえて、ハイハイ前の赤ちゃんとそのママに利用者を限定しています。

### 個人でも始められる「赤字にならない」子育て支援活動

漫画ルームを開くにあたっては否定的な声もありましたが、一方で背中を押してくれる方もおり、利用者が少なくともニーズは必ずあると信じて最初の

一歩を踏み出しました。おかげさまで現在は、翌月まで予約が取れないほどの人気を博しています。子育て支援にはさまざまな形や方法がありますが、私のような個人でも始められる子育て支援活動として、このアイデアが今後全国に広がっていけば良いと思っています。

名称：練馬ママ漫画ルーム「よんこま」

活動開始：2011年5月

スタッフ：常勤1名（オーナー）

連絡先：〒176-0002

東京都練馬区桜台4-21-3 1階

TEL.080-6550-4646（営業時間内）



2012年1月に開店し、以来1,200人以上のお客様をお迎えしてきました。その全ての一期一会に支えられた3年間でした。この受賞を家族と、友人と、お客様と、分かち合いたいです。これまでは「店舗を守っていく」ことに精一杯でしたが、受賞を機に、今後は「各地に広げていく」ことを叶えていきたいです。



## 特定非営利活動法人 備前プレーパークの会

岡山県備前市 代表者：北口 ひろみ

▶ 豊かな自然に囲まれた「森の冒険ひみつ基地」  
で、のびのびとした子育てを応援

活動  
内容

子どもたちのしあわせを願い、最高の子育て環境づくりを目指して、  
自然豊かな里山環境で冒険遊び場づくりに取り組んでいます

### 里山の中にある手作りの「ひみつ基地」

「森の冒険ひみつ基地」は、瀬戸内海を間近に臨む自然豊かな里山にある、子どもたちのためのプレーパークです。最初は遊具や広場などないただの里山でしたが、今のようにわくわく感あふれる魅力的な環境にすることができたのは、この場所を提供してくれた地主さんをはじめとして、日々の運営や遊具づくり、さまざまな企画に参画してくれる親子、地域、他団体、行政の方々など、たくさんの人たちの力のおかげです。

### 豊かな自然と自由な遊びが 子どもたちをたくましく育てる

「森の冒険ひみつ基地」は、誰でも無料で自由に遊ぶことができます。子どもたちは全身・五感をフル活用し、異年齢の子どもたちと関わる中で、本来持っている力が引き出され、目には見えない心の根っこがしっかりと育っています。ここに来る大人たちも、子どもに多少のケガやケンカはつきものだと受けとめ、子どもたちを温かく見守り、子育ての学びの場となっています。

### より魅力的で、より子育てのしやすいまちへ

岡山県の子育て環境に対する評価は近年高まっており、豊かな自然に恵まれたここ備前市久々井にも多くの子育て世代が移り住んできています。今後

は、プレーパークに併設する形で、より多くの親子のために「地域子育て支援拠点」をつくり、外遊びと子育て支援の複合的な活動に取り組んでいきます。こうした活動を通じて備前のまちを、より魅力的でより子育てのしやすいまちにしていきたいと考えています。

名称：特定非営利活動法人  
備前プレーパークの会

活動開始：2005年7月

スタッフ：15名

連絡先：〒705-0024  
岡山県備前市久々井836-3  
TEL.090-9736-6406



活動10周年を迎える年にこれまでの活動を認めていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの活動は、たくさんの方々の力や個性が発揮された、地域のみんなが参加する子育てコミュニティづくりです。今後子育て・人育ちをふまえ、自然と共に豊かな暮らしを感じる、新しい場を創出していきたいと思っています。



## 北光クラブ

栃木県鹿沼市 代表者：渡邊 真知子

▶ 大人も子どもも、みんなが学び合うことで  
豊かな地域社会をつくることを目指して

### 活動 内容

子どもたちと関わる大人が楽しみながら、学校の抱える問題や課題を学校や地域と共に考え、教育環境を豊かにしていく活動をしています

### 狙いは学校・家庭・地域社会の連携

週休2日制の導入に伴い、子どもたちが得た貴重な時間に、大人たちが何をしてあげられるのか。学校と地域全体で検討した結果、地域の教育力を子どもたちの豊かな体験の機会として提供していくという結論に至りました。この地域には元々、教育支援のための土台となる団体がいくつもあり、また学校ではスクールアシスタントや北光家庭クラブといった生涯学習サークルが活動していました。そうした関係者・団体をネットワーク組織にし、効果的な連携を行うことを目的に、北光クラブは設立されました。

### 地域資源を活かすコーディネーター

多様な団体からなるネットワークの中で、私たちはコーディネーターとしての役割を担っています。連携している各サークルの協力を得て、放課後のチャレンジスクールや夏休みのサマースクールを開催したり、授業の支援のために、専門的なスキルを持った外部講師を招いています。北光クラブではその他にも子どもたちの学習環境を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。

### 活動の意義と成果が次の世代へと受け継がれていくことを願って

生涯学習を通じて大人たちが学び合ったことを、

学校教育(子どもたち)に還元していく。北光クラブでは、世代の垣根を越えて豊かな社会をつくるための仕組みを作り上げてきました。北光クラブ設立当初の子どもたちもそろそろ親になる年代であり、そうした若い人たちにこの活動が受け継がれていくことを願っています。

名称 : 北光クラブ

活動開始 : 2000年4月

スタッフ : 14人

連絡先 : 〒322-0062

栃木県鹿沼市泉町2457

TEL.0289-62-3421

受

賞

の

言

葉

これまで多くの方々にご支援をいただきながら活動できましたことを心より感謝しています。学校と連携しながら、授業の中でたくさんのお出逢いと豊かな体験を提供できていることは、先生方のご理解のたまものです。鹿沼市内の学校と連携し、楽しみ、気づきながら更なる活動ができるよう努力をしたいと思います。ありがとうございました。



## 特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター

三重県鈴鹿市 代表者：伊藤 理恵

▶ 当事者だからこそわかること・できること  
ママたちの「あればいいな」を形に

活動  
内容

地元企業と提携し、孤立しがちな母親が地域を知る機会をつくり、  
母親同士でシフト調整や託児援助を助け合って働く「コラボワーク」を運営しています

### 母親による、母親のための活動

三重県鈴鹿市は企業城下町という土地柄、他県からの転入者が多く地域との縁が薄いため、育児の支援が得にくく、働く意欲があっても専業主婦にならざるを得ない女性が多いのが現状です。そうした状況を自分たちの手で変えていくために、子育て真っ最中のママたちが中心となって「マザーズライフサポーター」を立ち上げました。

### フリーペーパー「ニコママ」も

### 託児付の休憩スペース「ニコママカフェ」も

### 母親目線で始めました

私たちが最初に取り組んだのは「ニコママ」の発行です。これは、子育て中のママたちのための情報を紹介するフリーペーパーで、現在では毎回4000部を発行して市内約140ヶ所に置かせてもらっています。その後、託児付の休憩スペース「ニコママカフェ」を開設。こちらも、子連れで気軽に集える場として多くのママたちに好評を博しています。

### 就労機会の創出と柔軟な働き方を可能にする

### 「コラボワーク」

現在は、一次産業を中心とした事業者の仕事を受託して、その参加者を募る「コラボワーク」の推進に特に力を入れています。一次産業は地域に根付いているため、他県から来た方と地域との結びつ

きを生み出すためには適しています。母親同士がチームを組み、チーム内で育児と仕事をシェアすることで柔軟な働き方を可能にするこの仕組みは、これまで働きたくても働くことのできなかった母親たちの就労機会の創出、そして育児と仕事を両立できる子育て環境の実現を目指す上で有効な手段だと、私たちは考えています。

名称：特定非営利活動法人  
マザーズライフサポーター

活動開始：2013年2月

スタッフ：6名

連絡先：〒510-0205  
三重県鈴鹿市稲生3-8-2  
TEL.059-386-2539

受 賞 の 言 葉

このたびは、このような賞をいただきありがとうございます。これを励みに、さらに多くの農家や企業と提携し、子育て中の母親が家族を優先しながら働くことのできる選択肢を増やしていきたいと思います。そして、本格的に働きたいと思ったときに、支えてくれる仲間を増やす助けになるようにサポートしていきます。



## 特定非営利活動法人 ままとーん

茨城県つくば市 代表者：野島 真奈美

▶ 赤ちゃん和学校の子どもたちがふれあい、  
現在と未来の子育てを元気にする  
「いのちの出前授業」

### 活動 内容

乳児と子育て中の親をゲストとして募り、児童たちに子育ての体験談と  
赤ちゃんとのふれあいからなる授業を届けています

### 地域性・時代性に応じた子育て支援活動を展開

流出入人口が多いつくば市は、地域内のつながりがどうしても希薄になりがちです。そのため、かつては子育て中のお母さんたちから「必要な情報がどこにあるのかわからない」といった声を聞くことも少なくありませんでした。そうした声を受けて「ままとーん」では、子育て情報誌の発行や、母親同士の交流の場である「つどいの広場」の運営など、地域の課題と時代のニーズに合わせた子育て支援活動を15年間にわたって行ってきました。

### 小学校から高校までを対象として出前授業を展開

活動を続ける中で学校現場から講師の依頼を受けたことをきっかけに、私たちの「いのちの出前授業」はスタート。子育ての真只中にあるお父さんやお母さんから妊娠・出産・育児にまつわる貴重な話を聞き、実際に赤ちゃんともふれあうことで、子どもたちは子育ての苦労や喜び、そして命の重さや尊さといった、机上ではなかなか学習できない大切なことを学んでいます。

### 参加したお父さんお母さんからも好評

「いのちの出前授業」には、これまで100組以上のゲストの参加があり、育児休暇中のお父さんが「育メン」のリアルな体験談を披露してくれたこともありました。特筆すべきはゲストのリピート率の高

さです。最初は照れながらも何度も参加していただけるのは、次世代を担う子どもたちに、自身の経験を伝えていくことに大きな意義とやりがいを感じてもらえているからこそだと思っています。

名称 : 特定非営利活動法人 ままとーん

活動開始 : 1999年5月

スタッフ : 70名

連絡先 : 〒305-0067

茨城県つくば市館野604-3

TEL.029-838-5080



「いのちの出前授業」を始めて3年。表情豊かに話してくれるゲストの方々、うれしそうに赤ちゃんを抱っこする子どもたちの姿に、私たちも励まされてきました。ゲストとして参加してくださる皆さん、私たちを信頼して授業を任せてくださる先生方に深く感謝し、これからも未来のパパ・ママたちに授業を届けていきたいと思えます。



## 特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット

福島県東白川郡 代表者：進士 徹

▶ 食・農・遊びの共同体験を通じて、  
子どもたちをたくましく育む自然学校を運営

### 活動 内容

自然豊かな中山間地域で、食や農を通じた共同体験と外遊びを。  
今も被災地で暮らす福島の子どもたちへ、貴重な野外活動を提供しています

### 食や農を通じた共同体験と外遊びの場を提供

自然豊かな阿武隈山系・鮫川村にて、昔ながらの食や農などを共同体験する自然学校を約20年にわたって運営してきました。当初は山村留学の受け入れを目的にした活動でしたが、現在は自然体験を中心とした活動へと軸足を移し、とりわけ震災による原発事故以降は、被災した福島県の子どもたちを積極的に迎え入れ、彼らにとって貴重な外遊びの場を提供する活動に力を注いでいます。

### 子どもたちの強さ・たくましさを実感

阿武隈山中の冬は寒く、最高気温が氷点下の日も珍しくありません。それでも参加してくれた子どもたちは、想いを吐き出すかのように、日が暮れるまで夢中になって屋外を走り回っています。初対面の子どもたちもすぐに仲良くなりますし、普段食が細い子どももたくさんご飯を食べています。自然の中での共同生活・共同体験の意義は、そうした子どもたちの本来持っている強さやたくましさを引き出してくれるところにあると思っています。

### 被災した子どもたちに伝えたいこと

震災から4年が過ぎようとしている今も不安は尽きませんが、プログラムに参加する子どもたちには笑顔が戻つつあります。「君たちのことを考えてくれている大人がたくさんいるんだよ」というメッ

セージを伝えながら、子どもたちへの支援を続けていきたいと思っています。そして、近い将来、子どもたち自身が想い描く、新しい福島を作っていってほしいと願っています。

名称：特定非営利活動法人  
あぶくまエヌエスネット

活動開始：1995年7月

スタッフ：4名

連絡先：〒963-8403  
福島県東白川郡  
鮫川村赤坂東野字葉貫57  
TEL.0247-48-2508

### 受賞の言葉

東日本大震災・原発事故後、福島では普通の暮らしが一瞬にして奪われました。さまざまな体験教育の場を作ることで、子どもたちは本来の子どものらしさを取り戻し、将来の希望も抱けるようになりました。マイナスの出来事をプラスに変えられたのは、多くの方が心を寄せてくれたおかげです。子どもたちの心豊かな成長をこれからも応援したいと思っています。



## いわて助産師による復興支援 まんまる

岩手県花巻市 代表者：佐藤 美代子

▶ 東日本大震災をきっかけとして始まった、  
助産師による訪問型子育てサロン

### 活動 内容

助産師とママが地域で気軽につながる育児サロンを通して、  
命を大事にし女性が元気になる社会を目指し活動しています

### 助産師だからこそできること

「まんまるサロン」はいわゆる子育てサロンですが、助産師が中心となって運営しているところに大きな特徴があります。産院での限られた診療時間の中では相談できなかった事柄や、わざわざ病院を受診するほどでもないちょっとした悩みを、気軽にゆっくりと相談・解決することができる点などが、専門的な知識を持った助産師が開催するサロンの魅力です。

### 子育てからちょっと離れて息抜きできる場所

ただでさえ苦勞の多い育児に、仮設住宅での生活など被災地特有の苦勞が加わり、大きなストレスを抱えながら子育てをしているお母さんたちが少なくありません。そこで「まんまるサロン」では、茶話会やハンドマッサージといった、お母さんたち自身がリラックスできるような活動も積極的に行っています。気兼ねなく過ごすことのできるひとときは、そうしたお母さんたちにとって格好の息抜きになっているようです。

### 出産から子育てまで、 幅広く継続的に支えていきたい

出産から子育てまで、お母さんたちを“点”ではなく“線”で支えることができるのが助産師の強みです。現在は岩手県内の7つの地域において、私たち

メンバーが訪問する形で子育てサロンを開催していますが、ゆくゆくは現地の助産師と連携するとともに、各地に拠点を設けることで「どこにいても気軽に助産師に会い、望むサポートを受けることのできる」体制と環境を整えていきたいと考えています。

名称 : いわて助産師による復興支援  
まんまる

活動開始 : 2011年9月

スタッフ : 10名(現地スタッフ含む)

連絡先 : 〒025-0026  
岩手県花巻市大谷地836  
TEL.090-4312-4697



素晴らしい賞を受賞できたこと、光栄に思います。東日本大震災をきっかけに、助産師が地元を飛び出し、産科過疎が進む岩手県の各地を走りまわり、子育てサロンを開催しながら、多くのママとつながることができました。『ママの笑顔が増えることで家族が元気になる!』ことを大事にしながら、復興に向けこれからも活動を続けていきます。



## 特定非営利活動法人 にじいろクレヨン

宮城県石巻市 代表者：柴田 滋紀

▶ 大切なのは継続性！地域に根ざした子どもたちの心のケアを目的としたレクリエーション活動

### 活動内容

仮設住宅訪問活動やお絵描き教室、プレーパークの運営などを通じて、被災地の子どもたちがのびのび過ごせる居場所づくりを行っています

### 塞ぎ込んだ子どもたちを笑顔にしたい

石巻市内で絵画教室や剣道教室を営んでいた私自身も津波によって家屋を流された被災者の一人です。避難所生活を送る中で目にしたのは、途方に暮れる大人たちのそばでじっと耐え忍ぶ子どもたちの姿でした。そんな子どもたちに元の笑顔を取り戻してあげたいと思い、避難所の一角でさまざまなレクリエーション活動を行うようになったのが、「にじいろクレヨン」設立のきっかけです。

### 継続した支援活動の必要性

子どもたちに楽しみを提供する支援活動は震災直後から多数ありましたが、その多くは単発であり、子どもたちのニーズや変化を把握できないという課題を抱えていました。そこで私たちは継続性や地域の力を重視し、スタッフも地元在住の人間を中心に据え、曜日ごとに決まった仮設住宅・集会所を訪れています。子どもたちの表情には徐々に笑顔が戻りつつありますが、震災によって心に負った傷は容易には癒えません。今後も長期的な視点からの活動を続けていきたいと思っています。

### 街の復興と生活再建のために

復興公営住宅などが整備されることによって、子どもたちの遊び場は今後もっと必要になっていきます。子どもが安心・安全に過ごせる居場所が確保

されることで、大人たちの心にもゆとりが生まれるものと期待されます。地域に根差した私たちの活動が、街の復興とともにそこに暮らす人たちの生活再建の一助となれば幸いです。

名称：特定非営利活動法人  
にじいろクレヨン

活動開始：2011年3月22日

スタッフ：10名

連絡先：〒986-0856  
宮城県石巻市大街道南4-10-5  
ヴィラ参番館 202号  
TEL.0225-25-5144



受賞の連絡をいただき、スタッフ一同大変喜んでおります。私たちは、震災後の石巻で子どもたちが日常を取り戻すための居場所づくりを継続して行ってきました。今なお6,000世帯以上が仮設住宅での生活を続ける中で、子どもたちにとって今の生活が将来楽しい思い出になるようにと願いながら、これからも活動を続けていきます。



## 稲垣 綾子

上智大学 総合人間科学部 心理学科



### 研究 テーマ

思春期以降の自閉症スペクトラム児をもつ親を対象にしたペアレントグループ・プログラムの作成と効果研究

### 内容

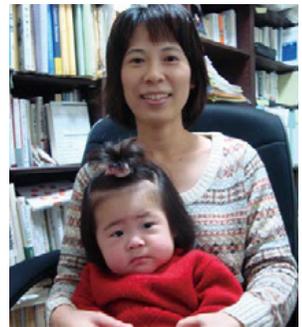
これまで、3歳～10歳の自閉症スペクトラム児をもつ親御さんを対象にペアレントトレーニングを行ってきた。その後、フォローアップセッションを開始したが、思春期を迎えた子どもとの関わり方に困難を訴える家族に出会うことが増えている。本研究では、自閉症スペクトラムにおける思春期・青年期についての心理教育とコミュニケーションの方法を学び、実践するペアレントグループ・プログラムを作成し、その効果について検討する。

### 受賞の 言葉

このたびは助成対象に選んでいただきありがとうございます。妊娠を機に博士課程を満期退学し、出産・子育てを通して親になっていくプロセスとともに進めてきた研究生生活は大変ながらも、子どもと家族の発達に関わる私の仕事に多くのインスピレーションを与えてくれています。今回の受賞を機に、子育ても楽しみつつ、より一層、発達の偏りをもつ子どもたちとご家族の支援につながる研究・実践活動に励みたいと思います。

## 稲見 直子

関西大学 社会学部 非常勤講師



### 研究 テーマ

コレクティブハウジングの持続可能性に関する研究 - 支援者の役割に着目して -

### 内容

高齢社会の今日、高齢者の孤独や孤立の解消の他、東日本大震災後の高齢者の住まいを考える上で、コレクティブ(複数の世帯がともに暮らす共生型集住形態)という暮らし方に注目が集まっている。本研究の目的は、コレクティブに高齢者が暮らす際、支援者が居住者や行政機関と関係を築く上でどのような役割を果たしているのか社会的に考察し、血縁や婚姻を基盤としない新たな暮らし方を提起することにある。

### 受賞の 言葉

出産直前に夫が病に倒れ、出産後は初めての育児と夫の看護に追われ、この先、研究を続けていくことは無理かもしれないと思いました。そんなとき、本助成のを知り、藁にもすがる思いで応募いたしました。助成対象に選んでいただき本当に感謝しています。本助成は文系の研究者を対象とするだけではなく、一部を育児関連費として利用できる点においても非常に貴重な存在だと実感しています。今後も研究に邁進し頑張っていきたいと思います。

## 加野 泉

日本福祉大学 非常勤講師

研究  
テーマ

アメリカ「ヘッドスタート」プログラムにおける  
家族支援 -再構築されるジェンダー役割-

## 内容

アメリカ政府による貧困層の未就学児を対象とした補償教育「ヘッドスタート」について、特に両親に対する教育プログラムに焦点を当て、親がいかなる能力を備え、子どもとどのような関係を築くべきと定められているのかを検討する。この教育の中で形成される父親・母親の役割を見出し、貧困層の家族支援のあり方を考察するとともに、米国の限定的な家族政策を背景に、家族がいかに機能することを求められているのかを読み解く。

受賞の  
言葉

7年前、第二子出産とほぼ同時に大学院に入学しました。遅々とした私の歩みを見守り指導してくださった先生方と、家族の協力のおかげで研究を続けてこられたと深く感謝いたします。限られた時間の中でしか研究に向き合えないことがもどかしく、何度も諦めそうになりましたが、助成対象に選んでいただき、研究の継続へとぐっと背中を押していただいたと思います。未来の子育てに寄与できる研究者を目指して、一層の努力をする所存です。

## 神谷 貴子

名古屋大学大学院 文学研究科 人文学専攻 西洋史専門

研究  
テーマ

中世後期都市フリブールにおける市民層

## 内容

中世ヨーロッパにおいて、諸侯や司教の統治のもと成立した都市の多くは、中世後期になると新たな支配層として台頭した市民の自治によって繁栄の時代を迎えた。近年、市民登録簿と呼ばれる史料類型が注目されているが、その中でもスイスの都市フリブールの市民登録簿は、詳細な情報を含んでおり、市民の構成のみならず、都市社会の微細にわたる状況が把握できる。本研究は、この史料群の分析によって、中世後期の市民層の実態を明らかにすることを目的としている。

受賞の  
言葉

これまで周りの理解や協力を得ながら、二人の子どもの子育てと研究に励んできました。とくに場面緘黙症を抱えた娘の学校生活に伴走しながら研究を続けることに、いつも葛藤を覚えてきました。この賞を通して、母親でありながら研究者として歩むことを肯定的に認められたことは、経済的な側面だけでなく、心の大きな支えになり、勇気や希望を与えられました。子どもと一緒に私自身もまた成長する機会を与えられたことを心から感謝しています。

## 下谷内 奈緒

東京大学大学院 総合文化研究科 国際社会科学専攻



研究  
テーマ

移行期正義における  
刑事裁判実施の政治過程の解明

内容

民主化や紛争を経た社会において、過去の人権侵害や戦争犯罪にいかに対処するかが国際的な問題となっているが、国家指導者の刑事訴追については各国内の社会的安定を維持する観点からその是非が論争となっている。本研究は、1990年代以降に裁判を行った国々の事例分析を通して、体制移行期に指導者の刑事訴追が行われる政治的メカニズムを解明し、学術的・社会的に新たな視点や方策を提示することを目的としている。

受賞の  
言葉

研究活動にご支援をいただきますことに、心より御礼申し上げます。まだ小さな子どもを持ちながら研究を進めていくことには、子どもと過ごす時間を大切にしているとはいえ、葛藤もあります。そうしたなかでも研究活動を続けることができるのは、夫をはじめとする家族や周りの方々の理解と支えがあってこそだと感謝しています。今回の受賞を励みに、子どもとともに成長しながら社会に貢献できる研究が行えるよう、さらに努めてまいりたいと思います。

## 中山 良子

大阪大学大学院 文学研究科



研究  
テーマ

若者の「純潔」とメディアの戦後史

内容

1960年代前半の日本では、若者の純潔やセクシュアリティに言及する作品が、映画や音楽、また雑誌記事などの形でメディアに登場し、多くの人に消費されていた。本研究は、このようなテーマの登場を若者に対する社会的処遇の変化の反映であると考え、当時の少年非行・教育・メディア規制の動向に着目し、これらを手がかりに、若者と純潔を含めたセクシュアリティの表象の変遷を解明することを試みる。

受賞の  
言葉

私は他の人より遅く大学院に入り、入学した年に第一子を出産し、育児と研究との両立に取り組んできました。しかし、やっと成果が出始めた頃には、若手研究助成申請の制限年齢を越えており、研究費の確保はまさに頭痛の種でした。育児中の女性研究者を支える本助成の存在は、私にとって希望の光でした。このたび受賞させていただいたことを心から感謝し、未来に資する成果に繋げるべく研究に邁進いたします。ありがとうございました。

## 橋本 磨美

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

研究  
テーマ

アメリカ連邦政府の図書館政策の変遷  
-1956年図書館サービス法から  
2010年図書館サービス・技術法を対象に-

## 内容

「まちの図書館」は、情報アクセスに関するセーフティ・ネットとして重要な役割を担っている。本研究は、公共図書館を支える制度面から、国の役割に注目する。1950年代の「図書館サービス法」に始まり60年以上の歴史を持つアメリカの図書館政策を歴史的に研究し、地域による情報格差を縮小するための方策や、一人ひとりの情報リテラシー向上に果たす支援の方法を示すことを目的としている。

受賞の  
言葉

子育て歴三年目、博士課程歴一年目の私は、どちらもまだ新米です。この受賞によって、これからの研究活動の背中を押していただけたと思います。保育所の帰り道、子どもに「ママ、今日もおしごとがんばった?」と聞かれるので、自信を持って答えられるよう研究に向かいたいと思います。そして、周囲の理解と支援に感謝しながら、子どもとともに研究者としても成長していきたいと思います。

## 前原 直子

沖縄国際大学および沖縄キリスト教学院大学 非常勤講師

研究  
テーマ

沖縄本島一地域における高齢期の「老い」への  
適応・不適応に関する人類学的考察  
-多文化共生の視点-

## 内容

高齢者や認知症ケアの研究分野においては、「当事者側から理解する」試みが期待され、注目を集めている。しかし、高齢期の認知プロセスが、個人的・社会的・文化的な要因によってどう影響を受けるのかといった研究は十分に進んでいるとは言えない。本研究では、「多文化共生のまちづくり」を進めている沖縄本島一地域において、多様な文化的背景を持つ高齢期の人びとがどのような「老い」を経験しているのか、民族誌的研究によって考察する。

受賞の  
言葉

これまで出産や育児のため何度も中断しながら、家族や周りの人の理解とサポートを得て、研究を続けてきました。北アイルランドの大学院で博士号を取得したとはいえ、業績がまだ少なく、4人の子どもの育児と養育費を思い、このまま研究者の道を目指していくことに不安を覚えていました。このたびは、母・研究者として背中を押していただき、大変ありがたく光栄に思います。より良い共生社会の実現に向けた研究に励んでいきたいです。

## 松井 生子

昭和薬科大学 非常勤講師



研究  
テーマ

仏教儀礼が醸成する民族の共生  
- 在カンボジア・ベトナム人の宗教的実践と  
民族間関係に関する人類学的研究 -

内容

在カンボジアの少数民族であるベトナム人は、多数派民族のクメール人を脅かす存在とみなされ、差別や迫害を受けてきた。このため彼らはクメール人に対し、距離を置いて接することが多かった。だが近年、調査地において、クメール人が信奉する上座仏教の儀礼にベトナム人が参加し、両者が関係を深める事象が見られる。本研究では、この儀礼参加の観察と聞き取りを通して、多数派民族と少数民族が互いを理解し、共生する契機を探ることを目指す。

受賞の  
言葉

このたびは、助成対象に選んでいただき、ありがたく、またとても光栄に思っております。現在、夫が単身赴任中で、一人で小さな子どもを育てています。研究者として実績をつくらなければならない時期に、思うように研究のための時間を確保できず、現地調査や研究会参加もままならないことは、大きな負担となっていました。そのような状況の中、今回の受賞は、これからの研究と子育てに勇気を与えてくれるものでした。

## 宮地 歌織

佐賀大学 男女共同参画推進室 特任助教



研究  
テーマ

ケニア農村部における妊産婦ならびに  
子育てに関する人類学的研究

内容

アフリカでは妊産婦や乳幼児の死亡率が高い国が多い中、ケニアではさまざまな母子保健についての取組みが国家レベル・農村地域レベルで実施されている。しかし、妊娠や出産、子育てをめぐる、その地域の文化や女性に焦点をあてた人類学的研究はまだ少ない。途上国においても、より女性が安全に安心して産める環境になるように、今後もフィールドワークを中心とした調査研究を行い、その課題解決への糸口となるよう努力していきたい。

受賞の  
言葉

男女共同参画推進室に勤務し、研究者が出産・子育てをしながら研究を継続するために環境整備等の取組みを行ってきました。しかし、自分自身の研究時間の確保が難しく、業績(論文)を積み重ねればキャリアアップできない研究者という世界の中で、仕事と研究、そして家族のケア、という課題を抱えています。そんな折の受賞のお知らせは、「研究を続けていいよ」と、背中を押していただいたように思い、大変勇気づけられました！



## 第5回(2011年度)受賞者最終報告



### 浅田 恵美子

京都大学大学院 教育学研究科臨床教育学専攻

#### 研究継続で得た成果

研究と子育てが拮抗する中で、研究にも子育てにも時間と労力が確保できないという葛藤がありました。助成のおかげで、研究も子育ても共に行える環境を作り出すことができました。子どもとの充実した時間を存分に楽しめたことは、非常に貴重な思い出です。



### 呉 禧受

名古屋大学大学院 国際言語文化研究科

#### 研究継続の中での生活環境の変化について

私が向き合っているテーマの研究は欧米で盛んに行われており、いつかは欧米で研究したいと思っておりました。助成のおかげで、2013年に研究拠点をニューヨークに移すことができ、物価が高い地であるにも関わらず、2人の子どもの生活と研究の両立ができました。



### 金 東研

東京大学大学院 総合文化研究科

#### 育児と研究の両立を取り巻く環境について

2人の子どもがいる留学生夫婦なので、経済的な不安定が大きなストレスとなっていましたが、助成によって経済的にも心理的にも余裕を持つことができ、伸び伸びと自分の研究に集中することができました。この受賞が、私の研究者としての人生の転換点となりました。

▶ 第5回受賞者の方から、助成期間を終えて

研究環境や子育て環境がどのように変わったのかをご報告いただきました。



## 小沼 和子

一橋大学大学院 言語社会研究科

### 研究継続で得た成果

一年目に現地調査を夏と冬の計2回行うことができ、研究の成果を得ることができました。また、二年目の夏と秋に2度、国内学会発表ができたことにより、2014年の1月に所属研究科に学位論文執筆計画書を提出できました。研究に取り組めたのも助成のおかげです。



## 齋藤 優子

東北大学大学院 国際文化研究科

### 研究継続の中での生活環境の変化について

助成により子どもを保育園に預けられるようになり、以前のように夜中早朝ではなく、日中効率的に研究ができるようになりました。助成一年目に博士論文を完成させたことで、助成二年目には専門研究員としてより研究を深めることができました。



## 清水 文枝

明治大学大学院 政治経済学研究科

### 育児と研究の両立を取り巻く環境について

本助成により子どもを米国の調査に連れて行けたことで、子どもが私の研究を理解してくれるようになりました。研究と子育てとの両立を模索する私にとっても、海外調査等で私が長期間留守にすることで精神的負担が大きかった子どもにとっても転機となりました。



## 西野 範子

NPO法人東南アジア埋蔵文化財保護基金 副理事長

### 育児と研究の両立を取り巻く環境について

子どもを出産してからは、研究のために外に出る機会は少なかったのですが、受賞を機に、家族からの理解を得ることができ、研究活動に時間を割くことを認めてもらえました。研究活動が社会に認められることは、研究を続けるための大切な要素なのだと感じました。



## 福島 雅子

学習院女子大学

### 研究継続で得た成果

助成をいただいたことで遠方の博物館や美術館での調査を実施することができ、研究を進めることができました。蓄積した研究成果を博士論文にまとめることで、博士号の取得も叶いました。安定した環境で研究を続けることができたことに心より感謝しております。



## 藤田 久美子

京都大学グローバル生存学大学院

### 研究継続の中での生活環境の変化について

受賞を機に、私の研究が家族からも認められて、研究者として生きていくことに自信がもてるようになりました。また、この2年間で、博士号取得、NPO法人勤務、インドネシアでの国際公務員の仕事など、想像以上に多くの経験をすることができました。



## 三好 美知

川村学園女子大学

### 研究継続の中での生活環境の変化について

---

助成でベビーシッターを頼めるようになり、週末に開催される学会や研究会、宿泊を伴うセミナーに参加できるようになりました。そのため人脈がさらに広がり、科研費の共同研究へのお誘いをいただくなど、研究の広がりを実感しています。

第4回受賞者 村角紀子さんは出産により二年目の助成期間を延長されていましたが、その後研究に復帰され、このたび最終報告をいただきました。



## 村角 紀子

### 研究継続で得た成果

---

無所属の個人研究者として活動を続けています。以前はこの立場に引け目を感じていましたが、本プロジェクトの受賞と助成期間中の成果を通じ、肯定感と覚悟を持てるようになりました。今後も試行錯誤しつつ、子育てと研究を手放さず続けていきたいと思えます。

# 第7回 受賞者の ご紹介

第7回「未来を強くする子育てプロジェクト」の表彰式  
および懇談会を、2014年2月24日(月)  
ホテルニューオータニにおいて開催いたしました。



受賞者と選考委員の記念写真



受賞者のスピーチ



懇親会の様子



お子様も一緒に

## 子育て支援活動の表彰 ● 第7回受賞者の近況 ●



### Kacotam

北海道札幌市 代表者：高橋 勇造

#### 受賞で変わった環境

#### 人から人へつながりがひろがっていくことを実感

受賞をきっかけに、知り合いから声をかけていただくことが多くなり、人から人へつながりがひろがっていくことを実感しています。受賞前は8ヶ所で行っていた学習支援を10ヶ所で行えるまでになりました。今までつながりのなかった大学からメンバーとして参加してくれたり、大学にKacotamを応援するサークルができたりとうれしいひろがりをみせています。



### 特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

福島県および宮城県 代表者：上國料 竜太

#### 受賞で変わった環境

#### 利用者に、より一層の安心と信頼を持っていただけるようになりました

この受賞をきっかけに、利用者からより一層の安心と信頼を持っていただけるようになりました。副賞は移動保育の際のバスレンタル代や現場スタッフ人件費などに充てられており、より安定した活動ができるようになりました。今後は、これまで培った保育のノウハウを全国に広め、地域住民自らの力で運営できる体制づくりにも力を注ぎたいと考えています。

## スミセイ女性研究者奨励賞 ● 第7回受賞者の近況 ●



### 井岡 瑞日 立命館大学・京都学園大学

研究テーマ：フランスにおける家庭教育の歴史

#### 受賞で変わった環境

#### 友人たちからたくさんの励ましの言葉をもらいました

本プロジェクトの表彰式では、娘と一緒に壇上にあがらせていただきました。壇上で私のスピーチを聞いたことは、彼女の心に強く残っているようです。受賞後、友人たちからたくさんの励ましの言葉をもらいました。私の出身研究室には子育て中の研究者がたくさんいます。その中には、私の受賞をきっかけとして、自分も挑戦してみようとするプロジェクトに応募した人もいます。私自身も、研究と子育ての両立をめぐる環境整備という問題について、以前にもましてより強い関心を抱くようになりました。